

# 富田守男 風 からの 現場 614

今月初めに農林水産省が品薄になっているコメに関する会議を開催。コメ不足の情報もあり新米5千3000円を超える状況は、昨年比で1000円前

後高い水準で、消費者のコメ離れが進むとの懸念の声。農業生産資材が高騰している中でコメ生産に対する低価格化が農業者だけの問題なのか、食料自給率向上も踏まえた議論を期待したい。

コメに関する新しい試みの情報

## 地域が求めるコメ栽培技術に関心を

を得ることができた。

普通を作る場合に比べ収穫量が1.5倍を期待できる「再生二期作」。温暖化を逆手に取った栽培方法で、田植えは春の1度のみ、1回目の収穫は8月から9月でその後、切り株から稲が再生して11

月半ば頃に2回目の収穫をする栽培方法だ。通常は根元から刈り取るが、再生二期作では40センチほど株を残して、新しい穂を出す栽培方法で田植えが1回だけなので、価格を抑えるメリットもある。

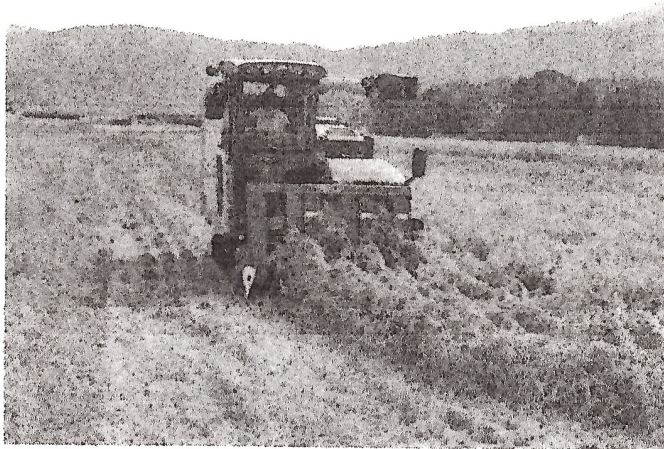
だ。どちらの栽培方法も大北地域の気候では対応できないのだろうかと思ってしまう。また羽鳥慎一モーニングショーで玉川徹さんが鳥取市でコメ作りをしている現場取材をして伝えた、植物の根

理を行わず手間や人手を削減でき、大幅にコストを削減できて、コメ1キを作るための全国平均生産費の約254円が100円以下に抑えたと伝えた。菌根菌は稲の根に感染すると地中に菌糸を伸ばし、稲は従前よりも多くの水分と養分を吸収との技術だか、雑草に対する問題がないのか危惧してしまふ。今後の新たな栽培方法がどんなものなのか楽しみにする。

農研機構では1回目と2回目の味に大きな差はない、気温が暖かい時期に収穫すると食味の低下が抑制できるとの情報を出している。同じ場所でも同じ作物を2回栽培で田植えを2度行う「二期作」とは根本的に違う栽培方法

に共生する菌の一種「菌根菌」による栽培方法は、田んぼに水を張らない乾田でのコメ作り。種をまく前に土を耕さない不耕起栽培で田に種もみを直接まく直播き。従来は必要だった苗づくり、田起こし、田植え、水の管

度がある輸出用のコメは、国内で出荷すると補助金を返納しなければいけないため、国内用への転用ができない



9月初旬に白馬村圃場で始まった酒米の稲刈り作業は倒伏気味だが期待できる収量だ

度がある輸出用のコメは、国内で出荷すると補助金を返納しなければいけないため、国内用への転用ができない。状態には今後の対応への議論が求められるの

（信州地域社会フォーラム会員・白馬村森上）